

平成28年度 第4回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会  
( 概 要 )

1 開催日時

平成29年3月9日(木) 13時30分～15時30分

2 開催場所

中部森林管理局 局長応接室

3 検討内容

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) 情報交換等
- (3) その他

4 検討結果

価格解析結果では一部の販売ブロックにおいて木材価格が「定常範囲を逸脱する動き」を確認したものの、各委員からの意見等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する「必要性はない」と判断する。

5 委員意見等

- ・ 立木販売については買いたいと思うが、架線系で卸ろし場所がなかったりで条件的に厳しい場所も多い。
- ・ ヒノキについては価格は安定している。カラマツについては品薄状態であるが、原木価格に反映してない状況。現在は出材が少ない。
- ・ 今後、皆伐箇所が増えることにより多様な材が出てくるが、仕分けをしっかりとしてほしい。
- ・ 木曽ブロックのヒノキについては11月頃は需要と供給のバランスが一時期悪かったため価格が上がったが、今は落ち着いてる状況。
- ・ 違法伐採木材は、世界的にも重要な問題ではあると思うが、国によって伐採の制限がバラバラであり、クリーンウッド法に罰則規定がないことから、どこまで規制できるかがポイント。国産材利用につなげることも必要。
- ・ A材とB材が区別されないで使われるのは問題。日本の製材・乾燥技術をもっと生かし、山村地域を活性化させるためにも、国として、中小製材工場によるニッチな材や高級材を支援する仕組みが必要。地域材の利用推進の取組もお願いしたい。
- ・ 長野県産カラマツのブランド化として、中部局の高齢級・大径丸太の差別化、PR等の取組に期待している。ブランド化には、こうした取組やそのPR等きっかけが必要。カラマツは、芯去り材としたり、乾燥、養生の仕方によっては無垢の非常にいい製品がとれる。

モデル的にブランド材をつくる単木管理の施業等も考えてみてはどうか。あとは強度を調べること等がブランド化には必要。